

# ものづくり教育実践センターの地域貢献とPR活動

○田之上二郎<sup>1</sup>, 矢野康之<sup>1</sup>, 安樂怜生<sup>1</sup>, 真木大介<sup>1</sup>, 濱畑貴之<sup>1</sup>, 金丸慎太郎<sup>1</sup>

<sup>1</sup>宮崎大学工学部教育研究支援技術センター

## 1.地域貢献活動とPR活動について

教育研究支援センターの生産技術系職員が運営支援を行っている「ものづくり教育実践センター」(以下:ものづくりセンター)では,地域貢献とセンターが保有する機器や技能のPRを目的に,大学祭と併催して工学部で行われる「アドベンチャー工学部」に「ものづくり体験教室」と題して,小中学生を対象に業務の中で研鑽したものづくりの技術を活かしたイベントを出展している.また昨年度からは,これまで国内外の来訪者向けに製作していた記念品を一般向けに販売し好評を得ている.本発表では令和元年11月17日に開催されたアドベンチャー工学部で実施した鉄球を転がし遊ぶ「迷路盤の製作」(図1,2)と,同日に行った記念品販売(図3,4)についての実施内容を報告する.



図1 迷路盤



図2 製作の様子



図3 商品サンプル



図4 販売の様子

## 2.ものづくり体験講座 -迷路盤の製作-

迷路盤の製作の概要は,1グループ2名(40分)で8回(計16名)を3名のスタッフで実施し,材料は切削加工が容易な塩ビ板(t8×100×100)を使用した.製作手順は,子供達が3次元CAD/CAMシステム(Fusion360)を操作して迷路作成を行い,NCプログラム作成とマシニングセンタ(大阪機工VP400)の操作はスタッフが行った.3次元CADでの迷路作成を簡単に行えるように,予めマス目を準備しそれを選択して経路を作成できるように工夫を行った.迷路作成の手順を図5に示す.

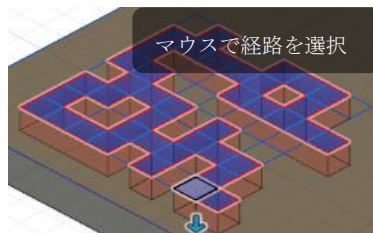
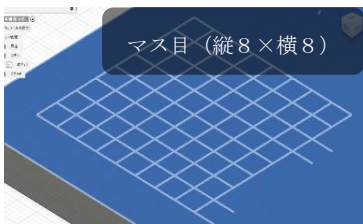


図5 迷路の作成手順

## 3.ものづくりセンター製作の記念品販売

ものづくりセンター製作の記念品販売は,学内向け依頼加工業務で製作している記念品の中から比較的早い加工時間でオーダーメイドの製品を作ることができるレーザー加工の製品と,これまでのイベントで好評を得ていたガラスマドラーを選定した.販売価格については市場価格を調査し適切な値段を決めた.販売商品と価格を表1に示す.

表1 販売商品と価格

商品名	価格(円)
コースター(名前入り/顔入り)	400/1,000
ネームプレート(顔・名前入り)	3,000
メモクリップスタンド	400
ガラスマドラー	500

## 4.ものづくりセンターの地域貢献とPR活動の成果

本年度実施した,ものづくりセンターの地域貢献とPR活動の詳細な成果については口頭発表にて報告する.